

園だより (年少さくら組)

小田原市立下中幼稚園

令和3年6月30日

湿度が高く、じめじめとした日々が続いています。汗をかくことも増え、『暑いときは涼しいところで休む』『お茶を飲む』と、子どもたちなりに暑いときの過ごし方に気付くようになりました。7月は、水遊びをしたり体調管理に気をつけたりしながら、暑い時期を乗り切りたいと思います。

身近な生き物との関わりを通して…

生き物への興味関心が強く、クラスではダンゴムシ、カタツムリ、ツマグロヒョウモンの幼虫、ザリガニ、オタマジャクシの飼育をしています。家で捕まえた生き物を連れて登園する幼児も多く、バッタ、サワガニ、クワガタ、トンボ、アゲハチョウなど、いろいろな生き物を観察することができ、より興味関心が高まったようです。



ツマグロヒョウモンの幼虫が羽化し、大興奮の子どもたち。「きれい〜!」「かわいいね!」「これは女の子だね!」と、じっくりと観察したり、羽をパタパタさせていると「飛ぶ練習をしているんだね。」と、子どもたちなりに考えたりする姿が見られました。

『このチョウチョウ、どうしようか?』という話し合いでは、「可哀想だから逃がす!」「かわいいから逃がさない!!」と、子どもたちの真剣な思いがぶつかりました。「このままだとお腹がすいて死んじゃうよ」「お花が好きだから、お花を入れてあげようよ」「この中だと狭くて飛べないよ」など、次第にチョウチョウの気持ちに寄り添って考え始め、最終的には全員が『逃がす』という選択をし、「バイバーイ!」と、空に飛ばたいいく姿を嬉しそうに眺めていました。



ある日、一人の男の子がオタマジャクシを連れて登園したことをきっかけに、クラスでもオタマジャクシ捕りに行くことにしました。年長さんに「一緒に捕りに行きませんか?」と誘いに行ったり、“捕るものが必要”と気付き準備をしたりしました。そして、捕るときには、“オタマジャクシが見えなくなっちゃうから静かに捕ると良い”ことに気付きました。子どもたちが、体験を通して学ぶ姿を見て、好奇心・探求心が高まったり、思考力を働かせたり、生き物を大切にしようという気持ちが育まれていることを感じます。

遊びの様子

「〇〇ちゃん、一緒に遊ぼう!」「〇〇くん、あれやろう!」と、やりたい遊びを見つけ、誘い合いながら友達と一緒に遊ぶ姿が見られるようになってきました。



「わたしお母さんね」「会社に行くってくるね」と、やりとりを楽しみながら遊んでいます。



お面と洋服・しっぽを身につけ、可愛い動物になりきって、魚釣りをしたりご飯を食べたりしています。



とても暑かった日には水遊びをしました。「あれー! 芝刈りくんも来た!」「水遊びしたいのかな?」



砂場に水を溜めるために使ったシートが、なかなか抜けません。「〇〇くん! 手伝ってー!」「うんとこしょ、どっこいしょ!!」

5月末より、当番活動を始めました。お休み調べ、給食前後の挨拶など、いろいろある仕事のひとつの中に、降園前の当番交代があります。その日の当番さんが、翌日の当番さんへとバトンタッチをする前に、みんなの前で、今日楽しかったことや頑張ったことなどを発表しています。

また、朝の集まりの時間には、「今日の朝ごはんは何を食べてきましたか?」「誰と、どうやって幼稚園に来ましたか?」「お休みの日はどんなことをしましたか?」など、子どもたち一人一人に聞く時間を設けるようにしています。

子どもたちの様子を見てみると、自分の気持ちを表情や態度では表現できても、上手く言葉で表現することができないことで、不安を感じたり、やりたいことを諦めてしまったり、友達とのトラブルにつながったりする姿が見られています。家では言葉にしなくても気持ちを理解してもらっているのに、幼稚園では先生や友達に伝わらないな…なんてことも多いのではないのでしょうか。自分の思いや感じたことを言葉にして伝えるのは、子どもたちにとってはとても難しいことではありますが、さまざまな活動を通して、自分の気持ちを言葉にして表現する経験を重ねていきたいと感じています。